

漢文句法「再読文字」確認テスト（未・将・当・須・宜・猶・盍） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1（未）一度目=いまダ 二度目=ず / 「未」は打消を表す再読文字。「いまダ～ず」と読み、「まだ～ない」の意。一度目「いまダ」は副詞、二度目「ず」は打消の助動詞として下から返って読む。

問2 花の落つること未だ多少を知らず。

（一度目「いまダ」、二度目「ず」と返って読む点に注意。）

問3（将）一度目=まさニ 二度目=～ントす（せんとす） / 「まさニ～ントす」と読み、これから起ころうとすること（近い未来・意志）を表す。例③は「まさに～んとす」と送る。

問4 私はいよいよ（これから）東へ行って帰ろうとしている。

（「将に～んとす」を「今にも～しようとする・～するつもりだ」と訳す。）

問5（且）一度目=まさニ 二度目=～ントす / 「且」は「将」と同じ働きの再読文字で、「まさニ～ントす」と読む。例④は「まさに暮れんとす」。

問6（当）一度目=まさニ 二度目=ベシ / 「まさニ～ベシ」と読み、当然・適当（～すべきだ・～のはずだ）を表す。

問7（応）一度目=まさニ 二度目=ベシ / 「応」も「当」と同じく「まさニ～ベシ」と読む。当然・推量（きっと～だろう・～のはずだ）を表す。

問8（須）一度目=すべからク 二度目=ベシ / 「すべからク～ベシ」と読み、義務・必要（ぜひ～する必要がある・～しなければならない）を表す。

問9 学者須らく志を立つべし。

（「須」を「すべからく」と読み、文末で「べし」と返って読む。）

問10 学問をする者は、ぜひとも（自分の）志を立てる必要がある（立てなければならない）。

（「須らく～べし」を「ぜひ～する必要がある」と訳す。）

問11（宜）一度目=よろシク 二度目=ベシ / 「よろシク～ベシ」と読み、適当・勧め（～するのがよい・～したほうがよい）を表す。

問12（猶）一度目=なホ 二度目=～ノ／ガごとシ / 「なホ～（ノ／ガ）ごとシ」と読み、比況（あたかも～と同じだ・まるで～のようだ）を表す。

問13 これは、ちょうど（あたかも）過ちがあるのと同じことだ（まるで過ちを犯したのと変わらない）。

（「猶ほ～がごとし」を「ちょうど～と同じだ・まるで～のようだ」と訳す。）

問14（盍）一度目=なんゾ 二度目=ギル / 「なんゾ～ギル」と読む再読文字。「どうして～しないのか」と相手に勧め・うながす反語的な言い方。

問15 子盍ぞ之を言はざる。

(「盍」を「なんぞ」と読み、文末を連体形「ざる」で結ぶ。)

問16 あなたはどうしてそれを言わないのか (言えばよいではないか)。

(「盍ぞ～ざる」を「どうして～しないのか」と訳し、暗に「～すればよい」と勧める気持ちをこめる。)

問17 イ (まだ～ない)。

「未」は打消を表す再読文字。

問18 ウ ((今にも) ～しようとする)。

「将・且」は近い未来・これからの予定や意志を表す。

問19 いずれも「べし」を伴うが、

- ・当 (応) … 「当然・適当」 = ～すべきだ・～のはずだ (道理・きまりとしてそうなる)。
- ・須… 「義務・必要」 = ぜひ～する必要がある・～しなければならない (必要性を強調)。
- ・宜… 「適当・勧め」 = ～するのがよい・～したほうがよい (おだやかな助言)。

同じ「べし」でも、当 (応) は当然、須は必要、宜は勧めとニュアンスが分かれる。

問20 エ (あたかも～と同じだ (比況))。

「猶・由」は比況 (たとえ) を表す再読文字。

問21 もとの二字 = 「何 (なん) + 不 (ず)」。

「盍」は「何ぞ～ざる」の「何不」が一字に縮まったもの。「どうして～しないのか」と問いかけ、相手に暗に「～すればよいではないか」とうながす (勧誘・忠告の) 気持ちを表す。

問22 用いられていない。ここでの「且」は再読文字 (まさニ～ントす) ではなく、「かつ」と読む接続の語で、「そのうえ・また・～であり、しかも」と前後の内容を並べてつなぐ意味で使われている。

(同じ字でも、再読文字か否かは文脈と送り仮名で見分ける。「且=まさニ～ントす」か「且=かつ」かを混同しないこと。)